

2019年10月

代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤

**ゲムシタビン**点滴静注用 200mg「ヤクルト」  
**ゲムシタビン**点滴静注用 1g「ヤクルト」

<一般名：ゲムシタビン塩酸塩>

「用法・用量」追加のご案内

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品につきまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤『ゲムシタビン点滴静注用 200mg「ヤクルト」』および『ゲムシタビン点滴静注用 1g「ヤクルト」』に関して、下記のとおり「用法・用量」の追加承認を取得しましたので、ご案内申し上げます。

今後とも、なお一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 用法・用量：(下線部追加)

1. 膵癌、胆道癌、尿路上皮癌、がん化学療法後に増悪した卵巣癌、再発又は難治性の悪性リンパ腫の場合

通常、成人にはゲムシタビンとして1回1000mg/m<sup>2</sup>を30分かけて点滴静注し、週1回投与を3週連続し、4週目は休薬する。これを1コースとして投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。

2. 非小細胞肺癌の場合

通常、成人にはゲムシタビンとして1回1000mg/m<sup>2</sup>を30分かけて点滴静注し、週1回投与を3週連続し、4週目は休薬する。これを1コースとして投与を繰り返す。シスプラチンと併用する場合は、ゲムシタビンとして1回1250mg/m<sup>2</sup>を30分かけて点滴静注し、週1回投与を2週連続し、3週目は休薬を1コースとすることもできる。なお、患者の状態により適宜減量する。

3. 手術不能又は再発乳癌の場合

通常、成人にはゲムシタビンとして1回1250mg/m<sup>2</sup>を30分かけて点滴静注し、週1回投与を2週連続し、3週目は休薬する。これを1コースとして投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。

2. 承認取得日：2019年10月23日

以上

発売元：株式会社ヤクルト本社

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-21 銀座木挽ビル

☎ 0120-589601 (医薬学術部 くすり相談室)

製造販売元：高田製薬株式会社

〒331-8588 さいたま市西区宮前町203番地1